



布施だより

《1学年戸隠キャンプ・2学年唐松岳登山》

実りの秋を迎えています。
夏休み前の「1学年戸隠キャンプと2学年唐松岳登山」について、1学年担当の矢澤芳昭先生・2学年担当の北原正人先生のレポートです。
お読みください。～ ～ ～

1学年の宿泊行事であるキャンプが、7月23日(木)24日(金)に戸隠キャンプ場で行われました。当日はあいにくの雨天でしたが、雨天の準備も万全の生徒たちは2日間元気いっぱい過ごしました。

2日間のキャンプを終え、ある担任の先生は次のように話しています。

『キャンプ場での活動ができなくなりました』そう伝えたときの生徒たちの落胆した様子が忘れられません。伝える担任としてもとても辛かったです。しかし、そのときの落胆ぶりから、このキャンプにかける生徒たちの期待の大きさ、思いの強さを感じることができました。大変うれしかったです。生徒たちとキャンプの準備をがんばってきて本当によかったと感じました。』

当日は計画通りの活動ができませんでした。しかし、大切なのは当日だけではありません。当日にいたるまでの2ヶ月もの間、みなさんは学年全体の生を向上させようと様々な「キャンペーン」に取り組んだり、自分の係活動に懸命に取り組んだり、キャンプを成功させようと努力を重ね、「まとまり」を高めてきました。その時間こそ「戸隠キャンプ」の最も重要な時間だったのではないのでしょうか。1学年のみなさんの班・クラス・学年のまとまりをさらに高めることができた、大成功の「戸隠キャンプ」だったといえるでしょう。



～ ～ ～ ～ ～

2日目は「EXアドベンチャー」という施設で、クラスごと2グループに分かれて活動しました。そこではスタッフの方から出される課題に対して、グループのメンバー全員で挑戦します。普段あまり話すことのない仲間と意見を交わしたり、課題をクリアしたりしたときの歓声やハイタッチなどが印象的でした。

解散の会では学校長から「普段の生活で大切にしている(あいさつ、時間を守る、残食ゼロ。)ことが生かされた登山でした。」の言葉がありました。日常生活が行事につながっていること、君たちの良さが輝いていたことを意味する言葉だったのではないのでしょうか。さらに、今回の登山ではしおりの行動細案とは異なる動きがたくさんあった中で、その場その場での指示をしっかりと聞けたり、自分たちで「こうの方がいい。」「今はこうするべきだ。」と判断しながら動ける人、呼びかけてくれる人がたくさんいてくれたりしたことは、行事を通して君たちがひとまわりもふたまわりも成長したところです。

逆に、日常生活を離れたことで見えてきた課題や未熟なところもありました。それを今度は日常生活で見直していこう。2年生の2学期は部活や生徒会など3年生から引き継ぎが始まります。そして行く行くは学校の顔として後輩たちを引っ張っていかなければなりません。そのために、2年生みんな同じ方向を向いて、みんなでやっていきましょう。





《 西中の歴史 ～ 開校前から開校まで ～ 》

14日(月)には校長講話があり「西中の歴史～開校前から開校まで～」と題して、創立50周年を迎えている本校の創成期の振り返りがありました。お伝えします。

～今日は、開校50周年にちなんで、本校の歴史についてお話します。歴史と言っても50年の歴史があるので、今日は開校前から開校までの、本校のルーツにあたる部分についてお話します。

皆さんは、かつて篠ノ井市があったことを知っていますか？昭和34年、篠ノ井町と塩崎村が合併して篠ノ井市となり、昭和41年に長野市と合併するまでの7年間、篠ノ井市がありました。その当時、現在の西中の通学区は4つの中学校に分かれていました。篠ノ井市立信里中学校、共和中学校、塩崎中学校、通明中学校の4つの中学です。これは、共和中学校の昭和39年卒業記念写真です。…



さて、こうして昭和41年4月、信里中学校、共和中学校、塩崎中学校、通明中学校の西部地区を通学区として、本校が開校しました。開校したとき校名は、篠ノ井市立西中学校でしたが、その年の10月に篠ノ井市が長野市に合併し、長野市立篠ノ井西中学校に変わり現在に至っています。

本校の校舎は、この50年の歴史の中で改築や新築が何回か行われています。開校時の校舎です。校門、昇降口の位置が今と違います。東体の場所にはプールがありました。



開校1年目の初代生徒会長さんが、生徒会誌「銀河」創刊号に書いた巻頭言があります。そこには開校1年目の思いが綴られています。最後に、その一部を抜粋して読むので聞いてください。

◇この広い篠ノ井の一角に、どかっと腰を落ち着けた、とてもたのしい校舎、それが私たちの学舎、篠ノ井西中学校です。信越線の篠ノ井駅近くになり、列車の西の窓に近代的なクリーム色の校舎が見えてくると、誰かに見てもらいたく、また、まわりの人が「素晴らしい校舎だなあ。」と言ってほくなるほど、誇らしくなってしまう素晴らしい校舎です。素晴らしい外見、それでは中身はもっと素晴らしいものにしてやろうと誓った4月でした。開校1年目、それはすべてが新しく、生徒会、部活動、文化祭も、全校生徒が一丸となって協力し、困難なことも一つ一つ解決し、これらの土台を一から創っていきました。新しく完備された校舎に、立派な校風をつくり上げ、社会に役立つ人間になるんだという強い決意。…私たちの心に、そして西中の歴史に深く刻まれたこの一年。その歩みを振り返ると、希望という強い力が西中を底から押し上げてきたのではないかという気がします。…西中が、これから益々発展していくことを期待してやみません。



678名の生徒諸君は50年の節目と歴史をちゃんと大切にしながら、毎日の学校生活を誠実にそして力強く過ごしてくれています。

《50年のキセキ 今燃え上がれ ～678人の心あったかいんだから～》

10月2・3日(金・土)に第50回文化祭「銀河祭」が開催されます。生徒諸君の活躍をご覧いただきたくご案内いたします。多くの皆様のご来校をお待ちしています。

<10月2日(金)>

- ・登校 8:10
- ・開祭式 9:00～ 9:30
- ・ステージ発表(意見発表、英語弁論) 9:40～10:15
- ・総合的な学習発表 10:15～11:15
- ・自由見学 11:20～12:00
- ・生徒会企画 12:50～13:50
- ・洋裁部発表 13:55～14:10
- ・合唱部発表 14:15～14:50
- ・吹奏楽部発表 15:00～15:35

<10月3日(土)>

- ・登校 8:10
- ・音楽会 8:50～12:00
- ・閉祭式 13:00～14:00



